

ごあいさつ

平素より住友銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

皆さまのお手元に2001年版中間期ディスクロージャー誌をお届けいたします。本誌では、主に平成12年9月中間期の当行の業績内容をご報告するとともに、不良債権問題などの経営課題に対する取り組み状況やさくら銀行との合併準備の進捗状況等につきましてご紹介しております。

近年、経済・金融のグローバル化および日本版ビッグバンの進展により、邦銀間はもとより、業態・国境を超えた金融機関の競争は激化し、市場やお客さまによる銀行の選別という潮流が加速してきております。こうした流れのなかで、当行の株主、投資家、お客さま等への説明責任を果たすためには、時宜をとらえた公平なディスクロージャーを充実させていくことが必須であると認識しております。

当行におきましても、経営の実態を正確に認識・判断していただくために、財務内容、経営方針、業務戦略等に関する自主的ディスクロージャーを、「公平」「適時」「継続」「わかりやすさ」の原則のもと充実させてまいりました。昨年より発行を開始した本誌が、今後とも当行に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

さて、当行は本年4月にさくら銀行と合併して株式会社三井住友銀行となります。合併の成功に向けて両行の全役職員が最善を尽くしており、準備は順調に進んでおります。しかし、合併の成否を判断されるのは、最終的にはお客さまです。お客さまの支持なくして合併の成功はあり得ません。従って、新銀行では、合併によって大幅に拡充される店舗網、人員、資本、顧客基盤等を活用して、多様化・専門化するお客さまの金融ニーズへの対応や利便性向上に努めてまいります。他方、両行の重複部分については大胆な合理化を進め、コスト構造の抜本的な改革による価格競争力の向上を推進します。特に、IT投資に関しましては、まず両行のシステム統合を優先し、その後は重複投資の削減による投資余力を活かして、新たな商品・サービスの開発、効率的なデリバリーチャンネルの構築等に積極的な投資を実施していく計画です。

三井住友銀行は、経営理念として、「お客様に、より一層価値あるサービスを提供し、お客様と共に発展する」「事業の発展を通じて、株主価値の持続的な増大を図る」「勤勉で意欲的な職員が、思う存分にその能力を発揮できる職場を作る」ことを掲げております。私の使命は、全役職員が三井住友銀行の成功・発展にベクトルを合わせて一致団結し、この経営理念を実行していく体制を速やかに築き上げることだと考えております。

新世紀が始まり、新銀行発足まで残すところあとわずかとなりました。どうか今後とも住友銀行、そして三井住友銀行に変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成13年1月

頭取 西川善文